



# Preface

はじめに



## 本書のコンセプト

本書は、次の「英語学習者の願い」を叶えた英語教材です。

単語、文法、リスニング、... と「複数の教材」を使わず、  
「1冊だけ」で英語の「全分野」を身につけたい。

単語、文法、例文が「聞き流し」で覚えられて、「基本的な  
英文がスラスラと話せる」ようになりたい。

「今までの英語学習」は、

1. 単語・熟語を覚える
2. 文法・語法を覚える

そして、1と2の応用として

3. リーディングの練習をする
4. リスニングの練習をする
5. スピーキングの練習をする

というものです。1～5は別個に扱われ、書店の語学書コーナーに行くと、「単語・熟語」「文法・語法」「リーディング」「リスニング」「スピーキング」とジャンル分けがなされています。全ての分野をきちんと学ぶには「4～5冊」の参考書を使う必要があり、かなりの時間と忍耐力が必要です。

しかし、1～5を「1冊」で同時に学ぶことができれば、**時間的・精神的・金銭的な負担は大幅に軽減**できます。特に、時間の節約については、次の重要なメリットがあります。

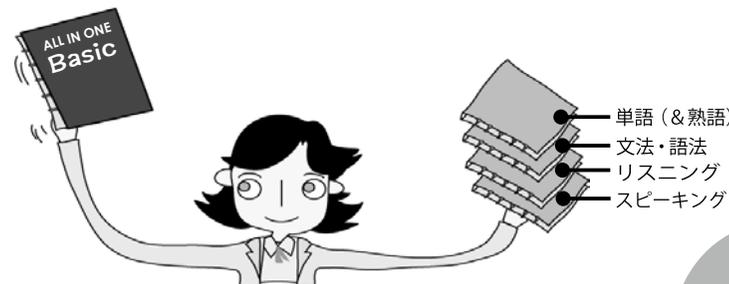
関連する複数の技能は  
別個に訓練するよりも  
並行して訓練した方が  
各技能の習得が早まる

← 認知科学の定説

つまり、1～5を別々に行うより、**同時並行で行った方が、それぞれ分野の習得に要する時間が短くなる**、ということです。これは、認知科学の定説で、運動選手が一回のトレーニングで「筋力トレーニング」「スピード訓練」「技術練習」の3分野を行うように、勉強以外でも広く実践されています。

また、英語の教材では、著者によって指導方法や文法説明が異なるため、**複数の教材で学習すると混乱や迷いが生じ、学習が捗らない**という弊害が生じます。しかし、「1冊」ならその心配もありません。

そこで、「中学卒業レベルの英語力がある学習者」を対象に、**英語学習の「全分野」を「1冊」で同時に習得できるようにしたのが、本書『ALL IN ONE Basic』**です。



## 本書の内容

英語を身につけるには、「短い英文」で学習するのが最も合理的です。なぜなら、「英語ができる」というのは、

- ・ 英文が読める ・ 聞ける
- ・ 英文が書ける ・ 話せる

ということですから、(負荷がかからない)「短い英文」で学ぶのが、「英語ができる」という最終目標に達する一番の近道だからです。

そして、本書の「短い英文」(これ以降は「例文」)は、より効率的な学習ができるよう、次の3つの条件を満たすようにしました。

① どの例文にも重要な「単語・熟語」が含まれる。また、例文間で同一定義の単語・熟語の重複がほとんどなく、「最小数の例文」で「最大数の単語・熟語」が覚えられる。

② どの例文にも「文法・語法」のテーマが含まれる。そして、全例文を通して「文法・語法」の「全範囲」が身につく。

③ 例文を意味の単位で区切って和訳、音声化することで、単語・熟語と英文の語順(=文法)が感覚的に身につく。

①は、1つの例文に平均2～3個の重要単語・熟語を盛り込み、同じ意味の単語・熟語が何度も出てこないように心がけました。その結果、音声にして70分程度の例文に約2100の最重要単語・熟語(単語・熟語の選定資料はP534を参照)が含まれています。また、例文は英語を書く[話す]際にそのまま使えるよう、自然な表現の、実用的な英語にしてあります。

②の「文法・語法」は、高校卒業以上の文法・語法を「網羅」しています。各種試験(大学受験、TOEIC、英検、TOEFL、IELTS等)の文法・語法問題にも十分対応できる内容です(P17参照)。

また、本書の文法・語法解説はネイティブの言語感覚を正しく反映しており(参考資料はP566を参照)、重要であるにも関わらず一般の文法参考書が曖昧にしている項目もきちんと説明しているため、「一生使える文法知識」がこの1冊で獲得できます。

③は、例えば、They stayed in a corner room with an ocean view. という例文の場合、「彼らは海の見える角部屋に泊まった」という和訳だけでなく、「彼らは泊まった・角部屋に・海の眺めを持った」という、意味の単位で区切った「読み下し訳」を示しました。

彼らは泊まった → They stayed → 角部屋に → in a corner room → 海の眺めを持った → with an ocean view.

この「読み下し訳」により、例文中で単語の意味がピンポイントで確認でき、英文の構造や修飾関係が「感覚的に理解できます。また、これに対応した「音声」(P20参照)\*を繰り返し聞くことで、単語・熟語と、英文の語順(=文法)が自然に身につきます。

\*右のQRコードをスマホでスキャンするか、パソコンのブラウザで <http://basic.linkage-club.com/> にアクセスして、スマホのホーム画面に追加、もしくはブラウザの「お気に入り」に登録してください。



## ■ 本書 Part1 の内容

# Lesson 3

① Lesson 3

② ③ 「前置詞+名詞」の形容詞句 (1)

Ch. 1

③ 前のレッスンで、「前置詞+名詞」は「副詞句」になると説明しましたが、「前置詞+名詞」は「形容詞句」にもなります。例えば、次の例文の下線部 (赤) は形容詞句として名詞の sense を修飾しています。

④ ① Ted has a strong sense of responsibility.

⇒ Ted は持っている・強い意識を・責任の。  
→ Ted は責任感が強い。

この「前置詞+名詞」の形容詞句は修飾する名詞の「後ろ」に置きます。この形容詞句の中で最もよく用いられるのは、例文①で使われている「of+名詞」ですが、「for [from, with, about, on, in]+名詞」なども比較的良好に用いられます。

② Is this the right train for Cambridge?

⇒ これは正しい電車ですか?・ケンブリッジに向かう。  
→ ケンブリッジに行くにはこの電車でいいですか?

⑤ ●● NOTE 名詞の形容詞的用法

例文④の corner room と ocean view に注目してください。corner room は「角+部屋」で「角部屋」に、ocean view は「海+眺め」で「海の眺め」になり、前の名詞が後ろの名詞を修飾しています。「名詞+名詞」の形では、前の名詞が形容詞的に後ろの名詞を修飾します。この原理は「動名詞の形容詞的用法」(Lesson 90) を理解する上でも重要になります。

⑥ ●● VOCABULARY

⑦

<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> a sense of ... [séns]</li> <li><input type="checkbox"/> responsibility [rispánsəbiliti   -spən-]</li> <li><input type="checkbox"/> right [ráit]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名 …の意識、…の感覚、…感</li> <li>名 責任、責務 (形 responsible [rispánsəbl]) 責任がある</li> <li>形 正しい、合っている、適切な</li> </ul>
--	---

本書は、「Part 1」と「Part 2」の2部構成になっています。Part 1は、「単語・熟語、文法、語法、リーディング」の学習を行うパートです。左頁を例に、各項目の内容を説明します。

- ① は、「Lesson 番号」と「Chapter 番号」です。
- ② は、その Lesson で学習する「文法・語法のテーマ」です。
- ③ は、例文に含まれる「文法・語法の解説」です。文法の専門用語をできるだけ使わず、簡潔な説明を心がけました。
- ④ は、学習の題材となる「例文」です。各レッスンには平均5つの例文があり、前から順に①②③...の番号が振ってあります。例文の下には2種類の和訳があり、⇒は「読み下し訳」(英語の語順の和訳)、→は「意識」(=自然な和訳)です。⇒の「読み下し訳」で例文の意味が理解できるようにしてください。「意識」は意味やニュアンスを確認するための補助的な役割です。
- ⑤ の「NOTE」は、各 Lesson のテーマの他に重要な文法・語法項目がある場合に掲載される「関連知識」です。
- ⑥ のような、解説中の( )は「参照箇所」を示します。これは、関連知識の確認や整理、復習を容易にするためのものです。
- ⑦ の「VOCABULARY」では、例文に含まれる重要な「単語・熟語」の発音記号、品詞、意味、及び関連語を示しています。単語・熟語の数は、見出し語(右頁の例では「a sense of ...」「responsibility」「right」)が約2000、関連語(「responsible」)が約280です。見出し語と関連語(及び、解説中の重要ポイント)は、確認テストができるように、暗記用チェックシート(文房具店で売っている赤色のもの)で消せる文字色にしています。

## ■ 本書 Part 2 の内容

① 003-2 Is this the right train for Cambridge?  
最初の t を省き間を置く (2)

003-4 They stayed in a corner room with an ocean view.  
ディナ (1) ザ (1)

② 004-5 He's not at his desk right now. I think he's in a meeting.  
ティ (1) ナ (1)  
タ→ラ (1→4)

Part 2 は「リスニングとスピーキングのコツ」を習得するパートです。

英単語は、複数組み合わせると別の音に変化したり、また、単一の語でも、辞書の発音記号通りに発音されないことがあります。このことが「英語が聞き取れない最大の原因」になっています。しかし、音の変化には一定の法則があり、その法則を覚えて「自分でも発音できる」ようにすれば、ネイティブの発音が「よく聞き取れる」ようになります。

この Part 2 では、本書のたくさんの例文（英語音声）を通して、ネイティブ式の自然な発音の仕方を習得します。

① は「例文の番号」です。最初の 3 桁は Lesson 番号で、ハイフンの後はその Lesson 内での例文の番号です。例えば、「003-2」は「Lesson 3 の例文②」を表します。この番号は「音声 Web アプリ」（P20 参照）のファイル名と同じです。

② はアンダーラインが引かれた部分の「音の変化」に関する説明です。変化の仕方はわかりやすいようにカタカナで示しています。例えば、003-4 の「d in a」の部分では、「d」と「i」が繋がって「ディ」になり、「n」と「a」が繋がって「ナ」になり、全体で「ディナ」と発音されることを示しています。また、004-5 の「t at hi」の最初の 2 文字の部分は、「t」と「a」が繋がって「タ」になり、さらに「ラ」に変化することを示しています。（ ）内の①②... の数字は発音の法則を示します（詳細は Part 2 (P485) をご覧ください）。

## 学習の進め方

本書を使った「オールインワン学習法」について6つのSTEPに分けて説明します。

最初に、1回の学習時間を設定します。人が集中できる時間は「30分～90分」と言われているので、この範囲で学習時間を決め、この時間内に最低1 Lessonの学習が次のSTEP1からSTEP3まで完了するように集中して取り組みます。時間に余裕がある時は、1回の学習(30分～90分)を1日に2～3回、間隔を空けて行くと、更に効果的です。

### STEP 1 Lessonの文法・語法の解説を熟読する

まず、Lessonの「文法・語法説明」を読み、例文で確認します。例文中で文法・語法のポイントを確認したら、例文全体の意味を⇒の読み下し訳(P7④を参照)とVOCABULARY欄の説明を参考に確認します。この時はまだ単語・熟語を覚えようとせず、**文法・語法の理解に集中**してください。参照箇所がある場合は、確認しておくことで知識の整理に役立ちますが、負担になる場合は読み飛ばしてください。学習範囲の最後に達したら最初に帰り、この作業を繰り返します。学習中に理解できない部分があったら、後で復習しやすいように下線を引いておき、その時点ではあまり囚われないようにしてください。学習が進むに従って「理解できるようになった」ということがよくあります。

### STEP 2 再び例文の読解を行い、単語・熟語を確認する

STEP 1で文法・語法の学習が終わったら、今度は例文に含まれる**単語・熟語の習得に集中**します。まず、最初の例文の意味が読み取れるかを確認します。読み方や意味が曖昧な単語はVOCABULARY欄で確認し、

口になじむまで発音します(P20の「単語・熟語の瞬時英訳テスト」で単語の発音が聞けます)。次に、例文に含まれる全ての単語・熟語の説明を読みます。既知の単語であっても何か役に立つ情報があるかもしれない。さらに、VOCABULARY欄の「関連語」に目を通して何度か発音しておくことで、薄く記憶に残り、単語・熟語力が一層増します。

### STEP 3 例文の読み下し訳を英語にする

STEP2が終わったら、最初の例文に戻り、「**読み下し訳**」を見ながら、**前から順番に「英語」にしてい**きます。この時、例文の英語は紙切れ等で隠し、少しずつずらして確認します。単語が思い浮かばない時はVOCABULARY欄を見て参考にします。すぐに例文の英語を見ず、よく考えることが大切です。名詞の単数・複数形や冠詞の間違いは特に気にする必要はありませんが、動詞の形(現在形、原形、過去形、過去分詞、進行形)の間違いは重要なので、間違った原因を、文法・語法の説明や例文の下の補足を読んで確認してください。

このSTEP3の作業は、例文に含まれる単語・熟語を記憶し、英語の語順(=文法)を身につける上で、とても効果的です。

#### 👉 ここがポイント!

英文を(日本語の語順と一致させるために) **戻り読みする癖**がついていると、①英語が速く読めない(つまり、リーディングが苦手) ②英文の聞き取りについていけない(つまり、リスニングが苦手)、ということになります。「戻り読み」の習慣を矯正するために、**読み下して英文を理解する習慣**を身につけましょう。

## STEP 4 「例文音声」で単語・熟語を記憶に定着させる

単語・熟語は「目」で見ると、「音」で聞いた方が記憶に残りやすく、「反復」しないと記憶に定着しません。また、単語・熟語だけで覚えるよりも「**文(脈)の中**」で覚えた方が、はるかに記憶に残ります。そこで、「**音声 Web アプリ**」(右頁の画像と P20 参照)の「**聞き流し**」を用いて、「音」「例文」「反復」という3つの要素を同時に満たす練習をします。この「聞き流し」の音声は、次のような例文を、

Ted has a strong sense of responsibility.  
 ⇨ Ted は持っている・強い意識を・責任の。  
 → Ted は責任感が強い。

以下の形にして、吹き込んでいます。

Ted は持っている Ted has 強い意識を a strong sense  
 責任の of responsibility. Ted は責任感が強い。  
 Ted has a strong sense of responsibility.

つまり、意味の単位で分割された和訳が先に読まれ、それに対応する英語が流れ、最後に全文を確認する、という形です。

この音声の良い点は、(分割された) **意味の単位**で英単語を覚えることができ、また、**例文全体**も覚えられます(「例文全体」の「英語」と「和訳」を吹き込んだ音声では「個々の単語」が身につけません)。

「聞き流し」を繰り返し聞くと、自然に単語と例文が覚えられます。最初は1 Lesson ずつ反復し、慣れてきたら、広い範囲を反復します。



## STEP 5 リスニングの練習をする

リスニングの練習は、「**読めば理解できる例文**」で行うのが基本です。例文に含まれる単語や文法がわからなければ、音を聞いて理解できるはずがないからです。「文字で読めばわかるのに聞き取れない」を聞き取れるようにするのがリスニングの練習です。

本書では、「**Part 2**」で音の変化や省略に関する法則を学び、聞き取れない原因を探ります(音の変化や省略に関する法則は、「**聞き取り(音の変化)の法則**」(P486 ~ P488)にまとめてあります)。そして、その音の変化や省略を**自分でも再現できる**ようにすることで聞き取れるようにします。

次はスピーキングの練習方法について説明します。

## STEP6 スピーキングの練習をする

STEP5 でネイティブの発音に慣れてきたら、今度はスピーキングの練習をしましょう。スピーキングの練習は「シャドーイング」という練習方法で行います。「シャドーイング」とは、ネイティブの発音する英文を聞いて、それをなぞるようにまねて発音することです。

[ネイティブの声] Ted has a strong sense of responsibility.  
 [シャドーイング] Ted has a strong sense of responsibility.  
 時間の経過 →

シャドーイングの練習は、「音声 Web アプリ」の「聞き流し」の音声で行うことができますが、慣れてきたら、「音声 Web アプリ」の「シャドーイング」の音声を用いた方が（和訳がない分）時間の節約になります。

Ted has (短い無音) a strong sense (短い無音) of responsibility.  
 (短い無音) Ted has a strong sense of responsibility.

この音声は、1つの英文を（分割された音声と全文の音声で）2回シャドーイングすることを意図していますが、全文の音声は速いので、分割の音声（ややゆっくり発音しています）だけでかまいません。**文の意味を考えながらシャドーイング**してください。声に出せない時は、**ぶつぶつと呟く**だけでも、ほぼ同じ効果があります。

シャドーイングは、スピーキングが上達するだけでなく、「単語・熟語の記憶」にも役立ちます。

STEP6 の総仕上げとして、是非、「音声 Web アプリ」の「瞬時英訳」にチャレンジしてください。

「瞬時英訳」は、以下のように、分割された和訳を聞いて瞬時に英語に置き換えていく練習です。

Ted は持っている (長い無音) 強い意識を (長い無音) 責任の  
 (長い無音) Ted has a strong sense of responsibility.

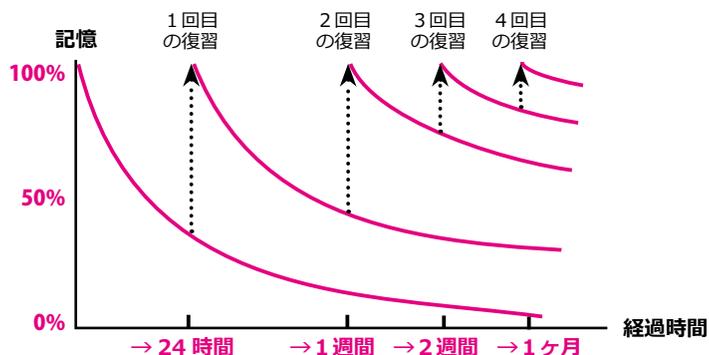
「(長い無音)」は学習者が英訳を行う箇所、STEP4 で使用した「聞き流し」の英語部分に当たります。英訳が合っているか確認できるように、最後に英語の全文が読まれます。この「瞬時英訳」ができるようになれば、例文に含まれる単語・熟語\*と文法が完全に身についているだけでなく、**高いレベルのスピーキング力も身につけています。**

以上、本書の「オールインワン学習法」を説明しましたが、実際に学習してみて自分に合わないと感じる部分があったら、ごり押しをせず、**自分のやりやすいように学習方法や手順を変えて**みてください。例えば、STEP3 の「例文の読み下し訳を英語にする」が難しく効率が悪く感じる場合は、STEP3 を飛ばしてSTEP4 の例文音声の「聞き流し」を何度も行い、単語を覚えてからSTEP3 を行う、もしくは、そのままSTEP5 に進む、というように、自分なりの継続可能な方法を模索してみてください。学習の最終目標は、本書の例文が全て「読める」「聞きとれる」「書ける」「言える」ようになることです。そこに至るルートは様々でよいと思います。

## 復習の仕方

人は、覚えたことをその日のうちに半分忘れ、次の日にその半分、1週間後にその半分、1ヶ月後にさらにその半分忘れる、とされます。また、覚えたことを記憶に定着させるためには、少なくとも4～5回の反復学習が必要だと言われています。

仮に、覚えたことを1ヶ月後に復習したのでは、当初の1割程度しか記憶に残っていないことになり、初めて学習する時と同じ程度の時間がかかるので非効率です。ですから、復習はこまめに行いましょう。脳科学研究者の池谷祐二氏は、「**学習した翌日に1回目の復習を行い、その1週間後に2回目の復習を、その2週間後に3回目の復習を、その1ヶ月後に4回目の復習を行う**」という方法を提唱しています。



本書の場合、この方法は「**文法・語法**」の復習に効果的です。STEP4～6の「音声学習」は、これよりも反復の回数を多くする必要がありますので、この学習間隔に囚われず、毎日の隙間時間を利用して、こまめに行ってください。

## 学習後の到達レベル

本書の学習でどの程度の英語力が身につくのかを説明します。英語力を測る一般的な試験では、下記の表がおおよその目安になります。

	単語・熟語	文法・語法	リーディング	リスニング	スピーキング
TOEIC 500点台	○	◎	◎	◎	---
TOEIC 600点台	△	◎	○	○	---
TOEIC 700点台	×	◎	△	△	---
TOEFL iBT 50点	△	◎	○	○	○
TOEFL iBT 70点	×	○	△	△	△
IELTS スコア 5	△	◎	○	○	○
IELTS スコア 6	×	○	△	△	△
実用英検 2級	△	◎	○	○	○
実用英検 準1級	×	◎	△	△	△
センター試験6割	◎	◎	◎	◎	---
センター試験7割	○	◎	○	◎	---
MARCH、関関同立 地方国公立大レベル	△	◎	△	---	---
早慶上位学部 東大京大レベル	×	○	△	---	---

◎ 十分対応 ○ 対応 △ やや不足 × 不足 --- 原則実施なし  
ライティングは「単語・熟語」と「文法・語法」の中間になります。

「試験対策はその試験に特化した学習書で」と考える学習者がいますが、「試験対策書」で試験の傾向と断片的な知識を学んでも、試験に合格する実力は養えません。どの試験も、単語・熟語、文法・語法、リーディング、リスニングの「基本部分」は同じです。まずは、この「基本部分」を本書できちんと固めた上で、足りない部分を補強してください。

## ■ VOCABULARY 欄の記号

名	名詞 (= 人や事物を表すことば)
代	代名詞 (= 名詞の代わりに用いることば)
形	形容詞 (= 名詞を修飾することば)
動	動詞 (= (主語の) 動作や状態を表すことば)
助	助動詞 (= 動詞を補助することば)
副	副詞 (= 名詞以外の語 (= 動詞、形容詞、副詞) や文を修飾することば)
前置	前置詞 (= 名詞や代名詞と結びついて副詞や形容詞を作ることば)
接続	接続詞 (= 語 <sup>1</sup> 、句 <sup>2</sup> 、節 <sup>3</sup> を結びつけたり、節をまとめることば)
間投	間投詞 (= 話し手の感情を表すことば)
慣用	慣用的な表現 (= 会話の決まり文句や品詞を特定できないことば)
同義	同じ意味のことば
反対	反対の意味のことば

one's	所有格 (my, your, our, his, her, their, its など) の総称
oneself	独立所有格 (myself, yourself, ourselves, himself, herself など) の総称
Vb	動詞 (V) の原形 (bare form)
Ving	動詞の ing 形
Vp.p.	動詞の過去分詞 (past participle)
R	巻末の Reference (参考資料) の番号を表します。
[ ]	直前のことばと置き換えが可能であることを表します (一部では [ ] の代わりに / を使っています)。例えば、「スポーツ [ゲーム] をする人」は「スポーツをする人」と「ゲームをする人」を表し、「…以外に [の]」は「…以外に」と「…以外の」を表します。見出し語が「have a good [great] time」で和訳が「楽しい[とても楽しい]時を過ごす」なら、have a good time の訳が「楽しい時を過ごす」で、have a great time の訳が「とても楽しい時を過ごす」になります。
(( ))	語法や文法に関する注意点や補足を表します。
( )	( ) 内のことばが省略可能であることを表します。例えば、「…から (の)」は「…から」と「…からの」の両方を表し、「(…を) 料理する」は「…を料理する」(他動詞) と「料理する」(自動詞) の両方を表します。
< >	主に、動詞の目的語にどのようなことばが置かれるかを表します。例えば、「<電話・トイレ>を借りる」なら、この動詞の目的語は「電話」や「トイレ」であることを示します。

((米))	主としてアメリカ英語で用いられることを表します。
((英))	主としてイギリス英語で用いられることを表します。
((口語))	主に会話やくだけた文章で用いられることを表します。
((可算))	可算名詞 (= 数えられる名詞)
((不可算))	不可算名詞 (= 数えられない名詞)
~	VOCABULARY 欄で用いられている「~」には「節」が入ります。(「…」には「語」や「句」が入ります)。但し、「ask … for ~」のように、「…」と「~」が混在する場合は、「…」と「~」には原則として同じ品詞の語句が入ります。

- 1 「語」とは1つの単語のことです。2 「句」とは2語以上で節未満の集合体です。  
3 「節」とは主語と動詞を含む集合体 (大雑把に言えば「文」) です。

## ■ VOCABULARY 欄の発音記号

初歩的な単語や何度も出てきている単語の発音記号は省略しています。また、句や節の発音は下線が引かれている語の発音だけを載せています。単語のアクセント (= 強く読む部分) は【énsər】のように【ˈ】で示しています。【ɪnfərméɪʃn】のような場合は、最も強く読むアクセントが【ˈ】で、次に強く読むアクセントが【ˌ】であることを表します。【énsər | ánsə】のように“|”で区切ってある場合は、左側がアメリカ英語、右側がイギリス英語の発音です。【prábləm | prɔ́b-】や【núsbədi | -bádi】のように2番目の発音記号にハイフン(-)がある場合は、その前か後の発音記号が1番目の発音記号と同じであることを示します (前者の場合は“prɔ́b-”の後に“lám”が、後者は“-bádi”の前に“núu”がそれぞれ入ることを意味します)。斜字体の発音記号は、その音が発音されることもあるし、発音されないこともあるという意味です。例えば【hwát】は【hwát】または【wát】と発音し、【bá:rd】は【bá:rd】または【bá:d】と発音します (斜字体になる発音は【r】【h】【d】【j】【ə】【g】【w】【t】です)。( ) は省略される場合があることを示します。例えば、【sɔ́(:)ri】は【sɔ́:ri】と【sɔ́ri】の両方の発音があることを示します。

発音記号の読み方は、巻末の参考資料 R1 で説明しています。  
<http://basic.linkage-club.com/hatuonkigo> の「発音記号一覧」で、実際の発音を聞くことができます。

## 本書の学習補助アプリ

本書「ALL IN ONE Basic」には、学習効率を高めるための無料のWebアプリ\*があります。スマホでご利用の場合は各QRコードをスキャンし、パソコンの方はURLをブラウザで打ち込んで、アクセスしてください。



### 音声 Web アプリ

<http://basic.linkage-club.com/>



本書の例文の『聞き流し』『シャドーイング』『瞬時英訳』『瞬時英訳』の学習が効率良く行えます。

特定の例文だけを繰り返し聞いたり、複数の例文をまとめて聞いたり、苦手な例文だけを登録して聞いたりできるので、例文の暗記や音声学習がはかどります。



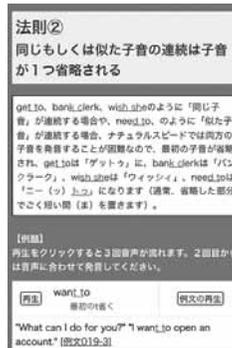
### 単語・熟語の瞬時英訳テスト

[http://basic.linkage-club.com/vocab\\_step1](http://basic.linkage-club.com/vocab_step1)

本書の例文に含まれる 2000 以上の「単語・熟語」を、Lesson 単位で「発音」と共に確認することができます。

例文の中で覚えた単語や熟語が「瞬時に言えるか」、つまり実際の会話や作文で使えるかどうか、「和訳→英語」の口頭テストで確認することができます。

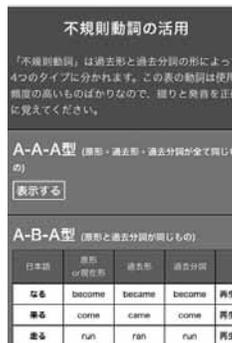
\* Web アプリはスマホやパソコンを使ってインターネットに接続して用いるアプリです。  
\* ここで紹介している Web アプリは、本書の改訂や絶版をもってサービス終了とさせていただきます。ご了承ください。



### 聞き取り (音の変化) の法則

<http://basic.linkage-club.com/otonohenka>

Part 2「リスニングとスピーキングのコツを習得しよう」で学習する音の変化に関する4つの法則を、音声と共に効率良く学ぶことができます。



### 不規則動詞の活用

<http://basic.linkage-club.com/doshi>

巻末の参考資料のR13「不規則動詞の活用」の内容を、音声と共に効率良く学ぶことができます。

ここに掲載されている動詞は使用頻度の高いものばかりですので、発音と一緒にしっかり覚えてください。



### 発音記号一覧

<http://basic.linkage-club.com/hatuonkigo>

巻末の参考資料のR1「発音と発音記号」の内容を、音声と共に効率良く学ぶことができます。

# Contents 目次

- ◆ **Part 1 (語い・文法・リーディング編)** ..... P23
  - Chapter 1 品詞 ..... P25
  - Chapter 2 文の種類 ..... P41
  - Chapter 3 時制 ..... P80
  - Chapter 4 文型 (1) ..... P105
  - Chapter 5 文型 (2) ..... P129
  - Chapter 6 受動態 ..... P162
  - Chapter 7 to 不定詞 ..... P194
  - Chapter 8 動名詞 ..... P232
  - Chapter 9 分詞 ..... P255
  - Chapter 10 名詞節 ..... P294
  - Chapter 11 形容詞節 ..... P318
  - Chapter 12 副詞節 ..... P349
  - Chapter 13 助動詞 (現在形) ..... P377
  - Chapter 14 助動詞 (過去形と完了形) ..... P403
  - Chapter 15 仮定法 ..... P426
  - Chapter 16 形式語の it ..... P442
  - Chapter 17 比較と数量表現 ..... P461
  
- ◆ **Part 2 (リスニング・スピーキング編)** ..... P485
  - ◆ Reference (参考資料) ..... P507
  - ◆ Index (単語・熟語・構文の索引) ..... P533
    - (文法・語法の索引) ..... P566
  - ◆ Road Map (上達の道標) ..... P571
  - ◆ 有料アプリ&ソフトのご紹介 ..... P580
  - ◆ About This Book (書籍情報、初版との違い) ..... P583